

情報マネジメント論第 6 回堀田

知識を運用するための知識

On Going・OJT（実践しながらの練習）による訓練

日本における英語の状況

英語のシェア

新聞/定期刊行物 50%

国際郵便物 50%

ラジオ放送番組 60%

Internet 90 %

私たちの生活・・・マスメディアから離れられない生活

私たちの認識もマスメディアによる部分が多い

e-Japan 重点計画

今年度中に全国の小中高校のインターネット導入率が 100%になる予定。

情報技術と教育の関係

—教育を支える情報技術→

情報技術

教育

←情報社会を支える教育—

子供用ソフトウェア

Web 学級日誌（ディレクターで製作）

なぜ紙でなくソフトで？

後で利用しやすい（温度一覧、写真一覧、あの動物がいたのはいつごろ？）

→それが新しい教育にどのような価値をもたらすのか？

クラス情報を Web で共有できる→発展：掲示板などで交流

開発原理の一部

ひらがなにすればいいわけではない

例：「わたしたちのこくどについてかんがえましょう」

→「国土」がわからない。その年齢の認識力に応じた言葉使いなどで
イラストは挿絵ではない

例：問題把握のための図

ナビゲーションが勝負

例：キャラクターの活用

技術だけでは適切なソフトウェアがつかれない→ひとりよがりになる
いろんな分野とコミュニケーションをとりながらチームで開発

富士通の教育用サイト

アクセス数の動向を調査→ノウハウの蓄積（企業の財産に）

例：コンテスト、イラスト、デジカメ画像へのアクセスの増加...

どの順にアクセスするか？どこを特に見るか？という情報から

新たなものを生み出す→データマイニング

インターネットアクセスの多様化

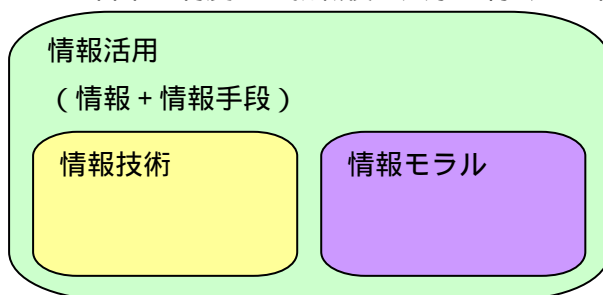
無線・有線・ADSL・デジタル放送・・・

IP が生活に←これを前提として

在宅学習・在社研修も・・・

知識を集めるだけでは、時代に流されてしまう

しかし日本の制度では就職後に大学に行くのは困難→通信学習など・・・



子供用番組 例「おこめ」

社会、理科で習った内容を応用・理解を含める。→学校で習ったことを生きた知識にする
問題解決へのプロセス、解決した内容の表現方法、コミュニケーション力
目的を捕らえた指導（←教師あて）

番組と Web サイトの連動

- ・ 体験のための知識、知識を生かした体験
うわべだけの学習からの脱却（ネットワーク技術の発達）
- ・ 体験とメディアの融合（田植えをしつつもコンピュータに触る）
バーチャルとリアルの架け橋
- ・ 多様な価値観の習得
交流学习、立場による違い
（東京の子供と石川県の子供の価値観＜ここでは農薬の是非＞の違い）

「体験！メディアの ABC」

→「組写真」についての話（写真の並び順によって意味合いが違ってくる）
（放送や情報を鵜呑みにすることの問題点に気づかせる、など）

クリティカルシンキング（否定的に見る）

例

写真を場面について考えて撮る
説明のためにはどの場面をピックアップするか
（イメージを伝えることを意図してピックアップされる）
実際に使うのは 11/360 枚

情報マネジメントの観点で見直すと・・・

情報技術と教育の関係

